

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム百楽苑
(ユニット名)	Aフロア(ゆり)
所在地 (県・市町村名)	蒲郡市三谷町南寺戸12-1
記入者名 (管理者)	宮瀬 恵美子
記入日	平成 20年 11月 25日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域密着型として、住み慣れた地域で安心した暮らしができるように支援することを事業所の理念としている。「共に思いやる心」を忘れずに、一人一人の人間としての共存を大切にしている。</p>	○	地域の中でその人らしく生活することを支えるケアとしたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>サービスの提供について言葉、態度記録等取り組んでいる。毎日の申し送りや会議等で気づきを積極的に話し合い、利用者への介護について考えている。職員は理念を頭に入れて日々のケアに取り組んでいる。利用者一人一人が主体になれるようなケアを心がけている。</p>	○	毎日の申し送りの中で職員間で話し合いの機会を持ち意識付けをして行きたい。ミーティング等に事業所の理念を再確認して行きたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>積極的に地域交流を図り、施設の方針等を分かってもらえるように努めている。又ご家族には家族会等、伝えている。ご家族や知人など面会時には行事等や生活の場면을報告し社会とつながりを持つことで生き生きとお話したり、ご近所の方と接したりし理解して頂けるよう取り組んでいる。</p>	○	今後も職員の意識を高めていくためにもご家族にその都度繰り返し伝えて行きたい。地域との交流を図り、地域に根ざした施設にして行きたい。
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>隣接の保育園に出かけたり、散歩に出かけたり、近所の方々と話が出来る環境作りを行っている。またお会いした時はあいさつを交わしたり、話をしたりしている。</p>	○	散歩、外食等地域の方々とのあいさつやコミュニケーションを図って行きたい。引き続き、近隣の方との交流を図れるようにしたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>保育園、小学校等の行事に参加している。町内のお祭りなどにも積極的に参加している。ボランティア活動に来てもらう等して、相互交流を図っている。</p>	○	園児たちとの交流、町内の行事に参加できるように継続して行きたい。ご近所の方が施設に足を運んでくれるようなコミュニケーションをとり地域のイベントなどにも参加できるようにしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方に認知症について質問や意見がある時、話し合いをしている。	○	地域の方々に気軽に相談をもちかけて頂けるような関係を構築していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を理解し、職員全員で自己評価を行い、気づきや振り返りをサービスの質の向上につなげている。	○	今後も自己評価をし、外部評価結果をふまえ、改善計画を作成し取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年2回の運営推進会議を実施している。家族や介護相談員、民生委員の方に参加して頂き、意見・助言を頂いている。	○	運営推進会議を通じて委員の方から意見、助言をして頂き、サービスの向上に努めたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に市の連絡協議会等へ参加している。また、月に2、3回蒲郡市長寿課へ出向き、介護認定更新等の手続きに行ったり、情報を頂いている。	○	利用者の課題解決のため、市町村と連携して共に取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業、成年後見制度等の講習会、研修会に職員が参加している。	○	今後もこのような研修に参加することで知識を深めて行き、その様なケースの利用者に援助をしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	一人一人の人権を尊重した介護に努めており、職員間で協力し合って、ゆとりのある介護が出来るように心掛けている。	○	高齢者虐待防止関連法についての知識を深め、支援される立場に立った心のケアにも力を入れたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>ご家族からの要望、アドバイスや不満をしっかりと聞き入れ、相手の身になり、職員間で話し合い、問題になりそうな事柄は早期解決に努めている。</p>	<p>○</p> <p>利用者、ご家族が安心して頂けるように十分な説明、対応をしていきたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の居室に訪室する時間を作り、一人ずつ話ができる環境作りに努めている。一人一人が我慢する事がなく、常日頃から思いを聞くように対応している。利用者の態度、言葉からその思いを察する努力をし、利用者本位の運営に心がけている。</p>	<p>○</p> <p>利用者の声に耳を傾け、その声を大切にし、職員間で話し合っていきたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、利用者の様子を手紙や写真で知らせたり、定期的に発行しているホーム新聞や法人の新聞を家族に渡している。面会時には、近況報告し、金銭管理については、ホームでの立替えとし、レシートを明示して、ご家族に報告している。</p>	<p>○</p> <p>利用者の生活等をご家族へ伝えていきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書に苦情受付担当が明示されている。面会時には、常に問いかけ、何でも話してもらえるような雰囲気作りを心掛けている。</p>	<p>○</p> <p>ご家族が気軽に相談できる関係を構築していきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>申し送り、ミーティング等で職員個々の意見を出しあい、話をするように努めている。月に一度の全体ミーティングで意見交換をしている。また、コミュニケーションを図るよう心掛けている。</p>	<p>○</p> <p>職員が常に意見や提案を出せる環境作りをしていきたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事等は余裕を持って職員を配置し、又家族へ参加等の連絡をしている。</p>	<p>○</p> <p>利用者の状況に合わせた柔軟な勤務体制が出来るように対応していきたい。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ユニット間の異動や離職がやむを得ない場合でも、利用者によっては個々に対応し、ダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>○</p> <p>急な事に不穏になる利用者もいる為、しばらくの間は研修とお話させて頂いている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他の事業所の研修等、積極的に参加するようにしている。	○ 常に向上心を持ち仕事に取り組めるよう、職員の状態に合わせた研修を受けさせたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ法人内での交換研修や他施設との交流をしている。	○ 交流を深め、情報交換や相談をして行きたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時には職員同士が気軽に話ができる環境を作り、悩み、ストレスを溜めないようにしている。毎日の申し送りや小さい事でも気づきを職員間で時間を作り話し合っている。	○ 相談できる雰囲気を作って行きたい。半年に一度、親睦を計る為に、飲み会を実施している。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	フロア目標、個人目標をかかげそれに向かって職員同士、励ましあいながら自分自身も向上している。	○ 今後も継続して、良好な職場を構築して行きたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	分からない事や不安な事がないか、こまめに聴くようにし、共感の気持ちを持って、安心して頂けるよう配慮し、早期解決に努めている。	○ 住み慣れた自宅から知らない人たちとの共同生活になることの戸惑いや不安を受け止め困った事や求めていることを何でも話していただけるような対応を心がけていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ショートステイ中にご家族から要望などを聞き、ご家族の思いに沿うように、ご家族の不安、心配事をしっかり傾聴し早期解決に努めている。	○ 家族の話聞き不安を取り除き、今後のサービスに生かせるよう努力したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っている事や不安な事に対して、できる事は、直ぐに実行している。	○	ご家族のニーズを個人で抱え込むのではなく、ケアマネ・看護師等と連携しながらサービスをしていく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	慣れない環境に不安を抱いていると思うので、好きなものを提供し、ゆっくりと過ごしてもらったり、負担にならない程度で、お話をしたり、工夫している。	○	安心感を第一に利用者、家族と何度か足を運んでもらい徐々に慣れてもらう。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個々の尊厳を保つ為、利用者が得意とする事のお話を聞いたり、喜びを分かち合ったり、共に暮らす者同士として、苦しみ・不安・喜びを共感している。	○	今後も助け合って、生活できるように援助していきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いを把握している。面会時、近況報告と職員の気持ちを伝えることで、ご家族の思いに近づき、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族に随時生活の様子をお伝えし喜んで頂いたり意見を頂いたり、一緒になって関わり合っていけるように努めたい。今後もご家族と連携を取り、利用者を援助していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者の日頃の様子をご家族に伝えたり、相談したりし、利用者のご家族がつながっていられるように配慮している。	○	今後もより良い関係が維持できるように努めていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が昔から利用している理容室へ通ったり、馴染みの八百屋に行き、話をしたり、一人一人の生活習慣を尊重したケアを行っている。	○	馴染みの理容店、八百屋に出向き、利用者が築いてきた人間関係を知る。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別に話を聞いたり、相談にのりながら、他の利用者との関係がうまくいくように、職員が間に入ったりしている。	○	利用者の性格等を理解した上で、お茶や食事の時間は、職員も多くの会話を持つようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業所へ移られた方、契約終了したご家族にも年賀状を出している。相談があった場合は、随時相談にのっている。	○	事業所に気楽に立ち寄ってもらえる雰囲気を作り、継続的な付き合いをしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活で我慢している方もいらっしゃるので、日々の関わりの中での言動や表情を観察し、希望等を聞いている。	○	一人一人の思いに沿って1日1日を楽しく過ごして頂けるように働きかけて行きたい。関わりを増やし、利用者の意向を聞いていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を把握し、個々の生活スタイルを崩さないように努めている。	○	ご家族の面会時に利用者の生活歴等を伺い、コミュニケーションにつなげている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の生活パターンを理解しそれぞれに合った声掛け会話等心がけている。個々の生活の過ごし方や状況を把握し、ケース記録に記入している。	○	利用者の生活スタイルを重視し、援助をしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人の思いを聞いたり、職員同士で話し合うなどしている。利用者との日常の会話やご家族の面会等での情報提供から意見交換を行い、介護計画に反映している。	○	利用者やご家族の要望を聞きながら、今後も変化するニーズに対応し、適宜していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化した際は、随時検討している。ご家族、利用者との情報交換することにより、小さな変化を見逃さず話し合いをし、見直しをしている。	○	現状とサービスとの違いがないように、ケアプランの見直しをしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、その日一日の個々の様子や変化など、細かくケースに記録し、職員間で情報を共有し合って、よりよい介護計画の作成に活かすようにしている。	○	職員の気づきや、利用者の状態変化は、個々のケア記録に記載し、職員間で共有を徹底している。さらに細かい気づきや工夫をしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診、お墓参り等、利用者、ご家族の状況や要望に応じて柔軟に対応している。	○	今後も継続要望に応じて支援を行って行きたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の保育園の行事に参加したり、施設に小学校のボランティアを受け入れ交流をしている。	○	今後も地域との交流を深めて行きたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご家族の意見、要望を聞き、必要に応じて他のサービスを受けられるよう努めている。	○	必要に応じて、地域のケアマネージャーやサービス事業者と連携して行きたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に出席してもらい、意見、助言を頂いている。	○	成年後見制度が必要と思われる利用者には、地域包括支援センターと協力してその利用者を支援して行きたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、ご家族の状況や要望に応じて柔軟に対応している。ご家族が了承したかかりつけ医で対応している。通院、受診は希望に応じて対応している。	○	かかりつけ医ともっと相談できる場を設けて行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	月2回かかりつけ医に往診に来て頂いている。市内に心療内科があり、認知症についての診断、治療方針等の指示をもらっている。	○	専門医との連携を密にし、利用者の不安を取り除いて行きたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	法人内の看護職と連携を取り、健康管理等常に相談し助言等もらっており、また、経験のあるパート職員がいる為、日頃より体調管理に気をつけている。	○	今後も医療面からのサポートを継続して行きたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先へ見舞いなど行き、病院関係者と情報交換しながら回復状況を確認している。	○	今後も医療機関と連携し利用者の支援をして行きたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者、ご家族の意向、利用者にとって、どうあったら良いのか、事業所が対応しうる最大の支援方法を踏まえて、方針を職員で話し合い、かかりつけ医と方針を共有している。	○	今後もご家族との話し合いを密にし、状態の変化に応じて対応して行きたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者やご家族の意向を踏まえ、医師・職員・家族と連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるように意思を確認しながら、取り組んでいる。	○	利用者、ご家族が不安にならないように支援して行きたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え前に面接記録や施設での生活状況等、病院と情報交換を行い、それに沿って本人が戸惑わないように配慮している。生活環境等、注意が必要な点について情報提供し、きめ細かい連携を心がけている。	○	ケアプランなどを情報交換を行い、円滑に移り変わりが出来るようにして行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	定期的に職員は言葉使いチェックを行っている。その時の雰囲気大切にしている。日々のかかわり方を十分に気をつけ、利用者のプライバシー、プライドを損ねないように心がけている。	○ どのような状況でも生活の主体が利用者自身であることを忘れず、共同生活の中でうまく利用者同士が関わりあえる環境作りをしたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員の考え方を押し付けることなく、利用者の希望を言えるような環境作りに心がけている。利用者の希望を引き出せるような働きかけ本人の選択、決定を重視している。	○ その人に会った声掛けを心がけ表情、雰囲気も含め汲み取って支援して行きたい。今後も自己決定を尊重しサポートしていく
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日頃から希望を会話の中で聞いたり、意思表示出来るように働きかけている。こちらで全て決めてしまわず、一つ一つ伺う気持ちで対応するように配慮している。	○ その人らしい暮らしとは何か、をもう一度職員間で話し合い、より良く理解したい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎日の身だしなみは個々で自由に行って頂いており、必要な時は出来ない部分のみ介助している。馴染みの美容室へ行きたい方には、送迎の支援をしている。	○ いつもと同じ見慣れた服やヘアスタイルに偏ってしまわないように服を新調する喜びなど本人や家族と話し合える場を持ちたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食の意識を高めて頂く為、一緒に食事の盛り付け、片付けを行い、職員と利用者が同じテーブルを囲んで、楽しく食事ができるような雰囲気作りを大切にしている。	○ 今後も継続。献立から利用者決めていく日を設けたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は利用者一人一人の嗜好品を理解しており、本人の様子を見ながら、それを楽しめるような支援をしている。	○ 利用者の要望があればそれに合わせて楽しんでいただけるように支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレ誘導を行い、トイレでの排泄を促し、失敗をなくす様、配慮している。ケアパンの使用を減らし、自己にて排泄ができるよう配慮している。	○	失敗してしまった時さりげない声掛けで着替えて頂き本人が傷つくことがないように配慮して行きたい。男性と女性と同じトイレを使用しているので便座や床の衛生面に気をつけ、排泄の失敗があってもプライバシーに配慮していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の声掛けは焦らず、好きな時間に入って頂くようにしている。	○	その日の利用者の気分に合わせて対応していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の生活パターンを把握し、夜間良眠できるように、日中の活動を促すようにしている。	○	昼間に無理矢理起こして活動させるのではなく、その時々状況に合わせて休息したり、活動して頂けるようにしていきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野でその人に合った能力を発揮して頂けるよう支援している。利用者の要望に応じて外出、買物、ドライブ等行っている。一人一人楽しく行えるよう、役割を考えたり、楽しみを見つけている。(家事、ゴミ捨て、食事作り、編み物、畑等)	○	一つの楽しみごとだけに留まらないように一人一人のその日の状況を見極めた支援をしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方が自己管理をし買物の際はご自分で支払いをしている。自分で管理できない方もご家族の了承を得て持っている。管理が難しい方は買物時は好きなものを選んで頂き、立替にて支援している。	○	個々の能力に合わせた支援を続けていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望に応じている。一人一人に声掛けし、ドライブ、買物、散歩等に出かけている。喫茶店、外食、散歩等楽しみごとを組み込んでいる。	○	散歩だけではなく、ドライブも兼ねて買物をする等、日常的に行えるように支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠くの場所への外出はあらかじめ計画を立て職員の勤務を調整している。(花火まつり、喫茶店、カップ寿司等)利用者の希望に応じ、ご家族と一緒に出かけている。職員が付き添いで個別でお墓参り等出掛けている。	○	利用者様の要望に必ずしも応えられている訳ではない為、少しでも多くの要望に応えられるように支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある方には、自由に電話をかけて頂いたり、手紙のやり取りをして頂いている。ポストへの投函等も一緒に行っています。	○	今後も意見に合わせて対応したい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	笑顔やあいさつを忘れずに、明るい雰囲気作りを心掛け、いつでも気軽に訪問して頂けるようにしている。	○	訪問者様がいつでも気軽に来て居心地よく過ごして頂けるようなスペースを作ったり、訪問の時間に制限を作らず、気兼ね無く、訪ねて頂けるようにしていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の申し送りでその日のケアを振り返り、自覚の無い身体拘束が行われていないか確認している。職員一人一人、身体拘束の無いよう支援している。	○	身体拘束によって利用者が受ける身体的、精神的弊害を認識し拘束の無いケアをして行きたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子を察知したら、さりげなく声掛けしたり一緒についていく等自由な暮らしを支えるようにしている。日中玄関には鍵をかけず外出しそうな時はさりげない声掛けや一緒について行ったりしている。日中は出来るだけ玄関の鍵を掛けないよう心がけている。居室はオープンにしている。	○	安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしたい。近隣の方々への施設の理解を深めるため、行事、会談等行い声掛け、見守り、連絡等していただける関係を築きたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はフロアにいる職員が見守りし、夜間は定期的な見守りをして利用者の安全確認を行っている。日中はリビングで利用者の所在を把握している。又夜間もリビングで待機(常に音や見通しがよいため)し24時間利用者の様子を把握している。	○	プライバシーには十分配慮し見守りを行っている。安全についてハードソフト両面から配慮し対応を続けたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ハサミや包丁等、危険が生じる恐れのある物は、利用者の見えない場所に置き、使用する場合は、職員が見守りをし、使用して頂いている。	○	職員一人一人が常に気を配り、注意の必要なものは気をつけて対応したい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット・事故報告書等、記録を残し、事故原因や分析を活かしている。事故が起きてしまった時はケース記録や事故報告書を作成し事故防止策を話し合っている。	○	事故防止の知識を深め、とっさの判断が出来るようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急隊員による勉強会に参加したり看護師による応急手当の講習会を行っている。夜間緊急時の対応マニュアルがありマニュアルに沿って対応している。	○	勉強会など積極的に参加し緊急時に対応できるようにしたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回避難訓練を行っている。消防署の協力を得て消火器の使い方など訓練をしている。地域の人々に協力を得られるように働きかけている。	○	災害時、地域で協力が行えるような体制作りを確保していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時、ご家族と話し合う機会を持っている。訪問が難しいご家族には、手紙を書いたり、電話をしたりして話し合っている。	○	日頃から家族との報告、連絡相談を続けていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル・体温・顔色等、本人の様子を観察し、医師・看護師にも報告している。フロア連絡ノートを作成しており、小さな事でも記入し、情報を共有している。	○	普段から利用者の状態に気を配り、変化が見られたときは速やかにかかりつけ医、看護師と連携を取って行きたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人に手渡し、飲み込むのを確認している。薬の変更があった時等は、本人の状態を観察し、薬への理解を深めている。一日の水分摂取量チェック表を記入している。	○	薬が変更になった場合は、フロア連絡ノートに記入し、薬箱にもメモ書きをし、職員全員に周知している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	すぐに薬には頼らず、水分を多めに飲んでもらったり、散歩等体を動かすように働きかけ、自然排便を促すように努めている。	○	乳酸菌の飲み物等多く取り入れて行きたい。適度に身体を動かすように取り組んで行きたい。薬に頼らない取り組みを続ける。一日の水分摂取チェック表を記入している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアを自己で出来ない方には、毎食後、声掛けをし、出来ない部分だけ介助している。	○	今後も毎食後に口腔ケアを実施していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に応じた摂取量、水分量を把握し献立に取り入れている。(おじや、お粥等) 食事の摂取状況を毎日ケース記録に記入し職員が情報を共有している。利用者一人一人の食事水分の摂取量を毎日記録し、共有の情報にしている。	○	安全に美味しく食べて頂くよう工夫を今後も検討していく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、アルコール消毒を行い、来苑者にもアルコール消毒をして頂くよう玄関に置いてある。感染症に関する情報収集を行い、予防対策に努めている。利用者、職員ともインフルエンザ予防接種を受けている。	○	1年を通して注意するもの、季節に応じて注意する感染症について知識を深めていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、ふきんは毎日、消毒を行っている。食材に日付を記入して食材の鮮度に気をつけている。台所チェックを行い、常に清潔を保っている。調理器具は使用后熱消毒を行っている。食材は使い切るようにしている。	○	基本的な手洗い、うがいを確実にを行い安全且つ衛生的な管理に努める。台所チェック表を実施している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は明るく開放的な広さがあり、下駄箱の上には、利用者の作った作品や絵が飾っており、入りやすいよう配慮している。	○	今後も利用者も来客も喜んでもらえる環境作りに努めたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下には季節に合わせた飾りや作品を置き、目を楽ませる工夫をしている。	○	残飯・汚物等は新聞紙に包んで臭いが出ないようにして捨てています。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファがあり、そこで仲の良い利用者同士がテレビを観たり、お話をしたりしている。	○	居室以外でも一人になってくつろげる空間作りや趣味などに集中できる場所などを設けるなど工夫して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にその方が普段から愛用されていた物や家具などを持って来て頂いている。机椅子、仏壇を持ち込まれ、好みの小物を飾ったり、居心地の良い部屋にして頂いている。利用者が持ってきた物、必要なものなどご家族と話し合い本人の使い慣れた物を持参してもらっている。	○	季節に合わせた壁飾りの工夫や写真の入れ替えなどに配慮して行きたい。今後も利用者の意見等を聞き、落ち着いた環境作りをしていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気扇で換気するだけでなく窓を開け空気の入替えを行い、温度調節は利用者の意見を聞き行っている。	○	換気扇と消臭剤で悪臭がでないようにしており、不快や病気につながらないように心掛けたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の身体機能を生かした環境作りを配慮し、出来る事はして頂き出来ないことを支援している。利用者のADL状態により、手すりや浴室、トイレ等に安全な環境作りをしている。	○	今後も個人個人の状態を把握し、その人にあった安全な環境作りを臨機応変に行いたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	失敗が続く時は朝の申し送り等で話し合い、失敗を防ぐ方法を皆で考え工夫している。部屋の入り口に目印をつけたり、トイレに看板等をつけて分かりやすくしている。失敗をしてもその方を責めず違う方法を見つけることを考えるようにしている。	○	今後も継続して行きたい。
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇があり、肥料をあげたり、季節のお花を日常的に楽しみながら活動している。	○	今後も利用者の意見に合わせて畑で季節の農作物、花などを植え、日々農作物、花などの成長を楽しみに活動して行きたい。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

オープンして4年目になります。もう一度原点に戻り、一つ一つのケア、一日の流れ等を本当に利用者中心になっているかを見直してみたいと思います。グループホームは、あくまでも利用者の生活の場であること、皆様が安心してゆったり暮らせることを第一に、温かなグループホームを作っていきたいと思っています。今までの施設ケアは、何時にご飯を食べる・おむつを交換する、何曜日にお風呂に入るといった画一的なサービスでした。一人一人持っている問題はそれぞれ違うので、個別ケアが徹底されなければならないと思います。